

学校だより

平成28年12月発行 鳥羽商船高等専門学校
広報・公開委員会「広報誌専門部会」
三重県鳥羽市池上町1番1号 TEL 0599-25-8013



全国高専プログラミングコンテスト



全国高専ロボットコンテスト



商船学科卒業式



SMA鳥羽丸トレーニング
留学生歓迎パーティー

- 校長式辞
- 就職・進学
- 全国高専プログラミングコンテスト
- 学生の活躍
- 国際交流
- 実習・研修
- 練習船「あまき」と陸上帆船
- 学校通信

校長式辞

平成二十八年年度・第四十五回商船学科卒業証書授与式並びに
第九回専攻科海事システム学専攻修了証書授与式

校長 新田 保次

本日ここに、多数のご来賓ならびに

保護者の皆様のご出席のもと、平成二十八年年度、鳥羽商船高等専門学校「商船学科卒業証書授与式」、ならびに専攻科「海事システム学専攻修了証書授与式」をとり行い、わが国の産業や科学技術を担っていく、フレキシユナ人材を社会に送り出すことができますことは、本校教職員・在校生一同にとりまして、この上ない喜びであります。

商船学科を卒業された航海コース一九名、機関コース一七名の皆さんは、五年六ヶ月の高等教育の課程を修了し、準学士の称号を授与されました。また、専攻科海事システム学専攻を修了された二名は、商船学科を卒業後、この二年間でさらに高度な専門知識を修得され、大学改革支援・学位授与機構の審査にも合格し、学士の称号が授与されます。卒業生・修了生の皆さんの今日に至るまでの努力を称えま

すとともに、皆さんを物心両面から支えて来られた保護者・ご家族の皆様にも、心からお祝いを申し上げます。

商船学科を卒業された皆さんは、本校キャンパスや鳥羽丸における四年六ヶ月の席上課程の後、丸一年間に及ぶ大型練習船での実習・訓練を経験されました。このような経験は、普通の高校や大学の教育課程では得られない貴重なもので、皆さんの今後の人生において大きな財産になると思います。皆さんの多くは、取得した海技免状を活かし、まずは航海士あるいは機関士として海運会社に就職されますが、石油、船舶、あるいは冷凍空調関係のエンジニアとして陸上企業に就職される方もおられます。また、さらに勉学を重ねるべく、本校専攻科に進学される方や、国立大学に編入学される方もおられます。進路はさまざまですが、皆さんが本校の教育目標にある「人間性豊かな教養人」、「創造性豊かな技術者」、「国際性豊かな社会人」として、今後ますます成長されることを願っています。

今や世界が高度情報化社会となり、

IoTに代表される第四番目の産業革命とも言われるインダストリー4.0、そして経済のグローバル化が急速に進展する中で、皆さんは、産業界とくに海事関連分野等において、深い専門知識と広い視野を持ち、リーダーシップを備え、かつ日本人としてのアイデンティティをしっかりと持った国際人としての活躍が期待されています。今後さらに英語力、コミュニケーション能力等の向上に努め、本校で培ってきた創造力、実践力を実社会でも存分に発揮できるように努めてください。

本校は、明治六大教育家の一人、近藤真琴先生によって明治十四年に創設された鳥羽商船を前身とし、百三十年以上の長い歴史と伝統のある学校です。その昔から本校で連綿と受け継がれてきた教育理念、あるいは校風とも言えますが、「進取・礼讓・質実剛健」、この三つを大事にしてください。

皆さんの多くが活躍する海洋は、地球の七割を占めます。国境で区切られた窮屈な陸ではなく、自由で雄大な海で夢を持って活躍できます。しかし、そこは凶暴でもあり、荒波に揉まれる木の葉にも似て、苦難を感じることも多々あるで

しょう。それを乗り切るには、あの「白鯨 MOBY-DICK」の主人公イシュメールのように、強い生きる意志と他者を思いやる優しい気持ちが必要になると思います。この点をしっかりと自覚して歩んでほしいと思います。

卒業生の皆さん、鳥羽商船高等専門学校は皆さんの母校であると同時に、社会への旅立ちの母なる港、母港でもあります。海学祭あるいは同窓会などの折には、また元気な顔を見せてください。皆さんのこれからの長い人生航路の安全とご活躍を心よりお祈りして式辞と致します。

平成二十八年九月二十五日

鳥羽商船高等専門学校長 新田保次



商船学科航海コースの就職・進学状況について



商船学科航海コース主任
片岡 高志

商船学科航海コースの平成28年9月卒業生は19名です。このうち就職が14名、進学が5名となりました。就職者14名は全員海上就職です。海運会社からの求人は、昨年と比較して外航はほぼ同じ、内航の求人が若干増えました。内訳は以下のとおりです。

外航海運では、日本郵船(株)、(株)商船三井、川崎汽船(株)に各1名、旭タンカー(株)に3名が採用されました。近海・内航海運では、昭和日タムリタイム(株)に2名、川近シップマネージメント(株)、日本ガスライン(株)、福寿船舶(株)、昭陽汽船(株)、鹿児島船舶(株)、国華産業(株)に各1名が採用されました。進学は、推薦による大編入で東京海洋大学海洋工学部に1名、神戸大学海事科学部に1名、本校海事システム専攻科に3名が入学しました。また、専攻科海事システム専攻科修了生は2名(何れも航海コース出身)で、海技教育機構(旧航海訓練所)に1名、国土交通省職員に1名が就職しました。

今年度は就職者全員が海上就職に就いており、海技士の養成機関としての使命を果たすことができました。例年のことですが、大手外航船社への就職を目指す学生は常日頃勉学に励み、一・二級海技士(航海)筆記試験、第三級海上無線通信士試験等に合格を果たしております。更にTOEICのスコアアップにも懸命に取り組んでおりました。在校生のみならずも目標を据えて計画立てて勉強し、各種資格試験の合格を目指すとともに、英語力の向上や自己研鑽に励んでください。入学時に抱いた夢が叶うよう頑張ってくださいと思います。

商船学科機関コースの就職・進学状況について



商船学科機関コース主任
伊藤 友仁

平成28年9月の機関コース卒業者は17名でした。そのうち、海上就職が11名、陸上就職が3名、進学3名でした。海上就職は、日本郵船(株)1名、川崎汽船(株)2名、太平洋フェリー(株)1名、(株)フェリーさんふらわあ1名、第一中央内航(株)1名、福寿船舶(株)2名、中国総業(株)1名、大阪水上バス(株)1名、神原タグマリンサービス(株)1名です。また、陸上就職は、ダイキン工業(株)1名、出光興産(株)2名でした。進学は、本校専攻科2名、東海大学編入学1名でした。海上就職者の多くが海技士国家試験の2級または1級筆記に合格しており、上級の試験合格者ほど希望の企業に合格する傾向が顕著でした。

商船学科は、外航船員を養成するための船舶職員養成施設です。多くの学生が2級以上の海技士国家試験(筆記)に合格し、希望する船会社の採用試験にチャレンジして欲しいと思います。これから就職活動を行う学生の皆さんに伝えたいことは、低学年から英数国・等の、基礎学力をしっかり身に付けておくと、採用試験(面接試験、学力試験、SPI、適正検査、TOEIC、作文：等々)がありま(す)で必ず役に立つということです。さらに、課外活動などで健康な体を作りコミュニケーション力も身に付ける必要があります。本校で学生一人当たりの企業求人数が一番多いのは機関コースですが、実力がなければ希望する進路には進めません。学生にとって大事なことは、低学年時から十分将来に備えることです。

電子機械工学科の就職・進学状況



電子機械工学科長
古森 郁尊

平成28年度の電子機械工学科5年生42名の中で、進学希望者は7名、就職希望者35名でした。

求人企業は、電機産業、工作機械メーカー、電力・エネルギー関連、自動車メーカーと関連企業、航空機や船舶などの交通機械関連など幅広い企業から、就職希望学生数を大きく上回る求人数がありました。

就職状況について、第一希望企業への就職率は約80%でした。企業側の試験方法は、WEB試験の導入など変わってきていますが、面接試験は重要な試験として位置づけられ、面接で不合格になることがありました。原因は、企業の研究不足と体調管理の甘さです。また、面接では、社会性・協調性を見られます。就職活動を行う上で、企業だけではなく、社会情勢にも目を向けてください。また、クラブや同好会やボランティア活動を通し、培われる協調性もあります。活動を行っている学生は、是非やり遂げてください。

進学状況については、大学進学者が4名でした。このうち、1名は豊橋科学技術大学の特別推薦コース(授業料免除)に合格しました。残り3名は、本校専攻科へ進学します。多くの学生が推薦を希望しますが、推薦が無くても学力試験で希望する大学や専攻科に挑戦してほしいものです。

電子機械工学科の全学生諸君、君たちの進路の選択肢は想像以上にたくさんあります。いろいろな苦しいこともあると思いますが、自主的・積極的に行動し学生生活を送ってください。4年生諸君、今年の12月ぐらいから自己PRを考え始めてください。

制御情報工学科の進路状況



制御情報工学科長

江崎 修央

本年度は、10月30日時点で5年生41名のうち、就職30名、進学9名の進路が決定しております。就職に関しては、売り手市場は継続しており、大手企業を中心に、製造業はもちろん、電力会社や運輸業、ベンチャー系のIT企業など多様な業種に就くこととなっております。

進学については、留学生1名が豊橋技術科学大学、8名の進学希望者が第1志望どおり本校専攻科に進むこととなりました。

4年生のときから、クラス全員で「キャリアデザイン」について考え、自己分析、業界調査、エントリーシートへの書き方などに取り組んできました。肯定的に実施できた学生は、やはり1社目で内々定をいただいています。

ただし、この取組に消極的だった学生は、やはり就職活動で苦労していたように見受けられます。就職先・進学先を決めるということは、自分の将来像を描く上で非常に重要な活動です。自己分析をしつかり行い、これら何をやりたいかを明確にした上で、自分の考えやこれまでの成果を相手にうまく伝えられるようにすることが重要です。

また、4年生以下の皆さんは、授業・試験以外に何に取り組んでいますか？明日就職の面接があったとしても自己PRがすぐに出来るような努力を続けましょう。

進路が決定した皆さん、社会人になるとまとまった時間を自分のために確保することは難しくなりますから、今のうちに自己研鑽に励んでください。

専攻科の就職・進学状況



専攻科長

宮崎 孝

専攻科の就職状況ですが、好調で希望通りの企業に就職できた学生が多い年となりました。就職活動の時期の変更による混乱もなく、ほとんどの学生が4月中に希望の1社目へ書類を提出し、5月から6月にかけて内々定をもらっています。学校推薦による応募の場合、1社目か2社目で合格となっております。今年度は自由応募で採用試験を受けた場合も多く、2名が就職先として自由応募による企業を選択しています。学生自身の努力もありますが、売り手市場であることや新しいスケジュールに慣れたのも好調であった原因だったと思います。

一方残念ながら、今年度の進学者は0人でした。現在の研究を大学院でも継続できる制度やグローバルな人材育成プログラムなども用意されていますので、可能性を広げるためにも大学院への進学について積極的に検討して欲しいと思います。

就職準備のための一歩としてインターンシップがあります。専攻科からは三菱電機メカトロニクスエンジニアリング(株)、キャノンシステムアンドサポート(株)、マイスターエンジニアリング(株)に参加しました。参加者には良い刺激になっていいますが、希望者に対して実際に参加できた割合が低いので、協力企業を増やす努力が必要です。今年度は好調でしたが、来年度もこれが続くよう学生の支援を行っていきます。

平成28年3月及び平成28年9月卒業生進路先一覧(順不同) 平成28年9月30日現在

商船学科

- 就職先 (株) 商船三井、日本郵船(株)、川崎汽船(株) 昭和日タンマリタイム(株)、川近シップマネージメント(株)、旭タンカー(株)、日本ガスライン(株)、福寿船舶(株)、国華産業(株)、昭陽汽船(株)、旭タンカー(株)、鹿児島船舶(株)、(株)フェリーさんふらわあ、大阪水上バス(株)、出光興産(株)、第一中央内航(株)、神原タグマリンサービス(株)、中国総業(株)、ダイキン工業(株)、太平洋フェリー(株)
- 進学先 東京海洋大学、神戸大学、鳥羽商船高専専攻科(海事)

電子機械工学科

- 就職先 村田機械(株)、村田ツール(株)、島津メディカルシステムズ(株)、(株)日立ビルシステム、東芝エレベータ(株)、中部電力(株)、(株)タマディック、テバ製薬(株)、森永乳業(株)、関西保温工業(株)、日本オーチス・エレベータ(株)、東海旅客鉄道(株)、キクカワエンタープライズ(株)、三菱電機ビルテクノサービス(株)、ダイキンエアテクノ(株)、日本オーチス・エレベータ(株)、ANAラインメンテナンスステクニクス(株)、(株)Mテック、(株)カンセツ
- 進学先 豊橋技術科学大学、鳥羽商船高専専攻科(生産)

制御情報工学科

- 就職先 美和ロック(株)、(株)KSF、(株)エヌ・ティ・ティネオメイト、東海旅客鉄道(株)、(株)トヨタコミュニケーションシステム、万里設備(株)、三菱電機エンジニアリング(株)、ジャパンマリンユナイテッド(株)、(株)オプティム、日本オーチス・エレベータ(株)、東ソー(株)、富士ゼロックス三重(株)、神鋼テクノ(株)、中部電力(株)、国際ソフトウェア(株)、出光興産(株)、関西電力(株)、リンナイ(株)、イオンディライト(株)、(株)日立ビルシステム、キャノンシステムアンドサポート(株)、オムロンフィールドエンジニアリング(株)、シンフォニアテクノロジ(株)、富士重工業(株)、(株)東芝
- 進学先 筑波大学、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学、鳥羽商船高専専攻科(生産)

平成28年3月及び平成28年9月専攻科修了生進路先一覧(順不同) 平成28年9月30日現在

海事システム学専攻

- 就職先 国土交通省、(独)海技教育機構

生産システム工学専攻

- 就職先 ソニーデジタルネットワークアプリケーションズ(株)、フジテック(株)、富士電機(株)、三菱電機プラントエンジニアリング(株)、三菱電機エンジニアリング(株)、(株)NTTファシリティーズ中央、(株)NTTファシリティーズ関西、竹田設計工業(株)
- 進学先 北陸先端技術大学院大学



高専プロコン鳥羽大会

第27回プログラミングコンテスト主管校として

プロコン実行委員会 事務局長
江崎 修史

平成28年10月8日9日に、主管校として開催した全国高専第27回プログラミングコンテスト(以下プロコン)も無事に終わりました。運営を支えてくれているプロコン実行委員の先生方や、協賛企業様・後援団体様からも好評をいただき、率直に嬉しいと思っております。

これも、ご協力いただいた教職員の皆様方、制御情報工学科3・4・5年生十専攻科の学生さんたちのおかげだと感謝しております。

開催が決まってからの2年間は、3学科しかない小規模な本校(しかも≒科は当日口ポコンで不在)で運営するための人員配置や、狭い会場のどこで何を実施するかで頭を悩ませる毎日でした。

開催前の数ヶ月は、準備をし続けてもゴールの見えない仕事量でした。年々発展し肥大化するプロコンでは、各種書類作成、参加学生の登録はもちろん、協賛企業様の意向調整、来賓対応、弁当の集計、各種宴席の手配、時にはクレーム処理などに奔走する毎日でした。

本選当日は、私は受付後ろに本部を構えてトラブルのみに対応していたので、運営の駄目なところしか見えない状況でした。しかし、本選2

日目に客観的に考えたときに、どれも致命的なトラブルではないことや、各担当でそれぞれ初動対応がうまく行っている様子がわかり、全般的には順調に進んでいることがようやく理解できました。

今回の大会を運営するにあたり、事務局長として常に考えていたのは、もし急に私がいなくなっても開催不可能にさせないことでした。そのために、各部署の責任者・担当者に情報が行き渡る仕組みづくりに注力しました。グループ分けや配置はギリギリまで調整を続けましたが、おかげ様で各担当者は業務内容を理解して、各自の判断で正しく進めていただけました。ただし、私が直接指示を出す学生さん達には、いつも以上に厳しい言葉が飛んでおり、昼ごはんも喉を通らなかつたことと思います。

最後に、改めまして今回の大会は皆様のおかげで無事に運営することができました。教職員の皆様、学生さんにはこの場を借りてお礼を申し上げます。



全国高専プロコンで最優秀賞を受賞!

制御情報工学科4年
服部 魁人

私たちのチームは、「ドローンを用いた防災減災地図作成システム「みつばちず」」を開発しました。そして、全国高専プログラミングコンテスト自由部門に参加し、最優秀賞・文部科学大臣賞をいただきました!

私たちが開発したシステムは、自治会がドローンを自動航行させ、ドローンが収集したデータを元に被害マップを自動で生成することができます。

このような賞をいただくことができ、またこのチームでリーダーを務めることができたことはとても嬉しいことです。

私は開発期間中に感じたことが2つあります。

1つ目、作業が進む時期となかなか進まない時期があるということです。進まない時の原因は大抵、チーム内のコミュニケーションが少なかったことと。これによって様々な問題が出てきました。コミュニケーションをとることは大切だとよく言われていますが、本当に大切に必要なことなんだと感じました。

2つ目、地域の方との繋がりがとても大切だということです。今までに地元自治会の方との繋がりがあつたからこそ、このシステムの実証実験に協力していただくことができ、システムが

より良いものとなりました。

プロコン当日、デモブースにはたくさんの方の企業の方にきていただきました。システムの説明をする、「完成度が高い」、「今すぐにも使うことができるようなシステム」などお褒めの言葉をいただきました。また、企業の方とお話をさせていただき、有意義な時間を過ごすことができました。

このコンテストを通して、チームで開発する上で注意すべきことや、チーム内でのコミュニケーションの大切さを実感しました。貴重な体験をさせてもらい、教官・チームメンバーにとっても感謝しています。

現在、「みつばちず」は地元自治会で実証実験を行なっています。私たちはこのシステムを多くの地域に使用していただけるように、これからも自治会の方のフィードバックを得ながらシステムの改良を続けていきます。



学生の活躍

鳥羽商船ロボコン同好会の成長

電子機械工学科4年
片浦 雄大

私は一年生からロボコンをしており、去年までは大会で1勝すらしたことがありませんでした。毎年、半年かけて作ったロボットが全く活躍することなく終わるのはとても悔しかったです。特に昨年は、お世話になった一つ上の先輩たちと一緒にチームで戦える最後の大会で、ロボットの出来もそれまでで一番良かったので、なんとか先輩たちを勝たせたいと思っていました。結果は課題のクリアもままならず初戦敗退でも悔しい思いをしました。それでも先輩達は、私たちなら次の年に良い結果を出すと思ってくれ、その気持ちにこたえるためにこの半年間頑張ってきました。

そして迎えた今年も、地区大会では1勝でき、アイデア賞と特別賞の二つを受賞し、さらに全国大会への出場も果たすことができました。残念ながら、全国大会では初戦敗退という結果になってしまいました。また、地区大会、全国大会ともに課題の全クリアにはいたることが出来ませんでした。それでも、去年までとは違って練習では課題をすべくクリアできるロボットを作れるようになっており、毎年着実に鳥羽商船高専のロボコンは成長してきています。今後とも後輩達が、成長を続けてくれると思いますので、今後とも応援よろしくお願ひします。



ソーラー&人力ボート全日本選手権大会2016に参加して

商船学科航海コース5年
三谷 僚

2016年8月27日から28日に愛知県碧南市の勤労青少年水上スポーツセンターで開催された、ソーラー&人力ボート全日本選手権の人力ボート部門に参加しました。

この大会は人力またはソーラーパワーを用いて推進する手作りボートのレースで、毎年夏に1回日本ソーラー&人力ボート協会の主催で大会が開催されています。大会の種目は、200mスピードレース・1000m周回レース・1時間耐久レースの3種目があり、ボートのスピードだけでなく、ボート自体の耐久性・操縦性などが求められます。

このボートレースに本校では、2007年から商船学科の鎌田先生とその卒業研究学生達を中心としたチームで11年連続の出場となり新しく設計・



製作した出来たての船体の「カマテック16号」で挑戦しました。船体の製作は作業量が多く大変でしたが、様々なことを学べ、大変勉強になりました。大会は晴天に恵まれ、初日の耐久レースは人力排水量部門（水中翼でない）にて「1時間耐久レース3位」で入賞することができました。ところが、次の日のスピードレースでは推進力を伝えるギアが不調になり、完走はできたものの総合順位を大きく落とししまいました。

今年の学生総合優勝は愛知県の「享栄高校」でしたが、来年は今年の失敗をもとに良い結果を出して欲しいです。ボートレースは色々トラブルもあり大変でしたが、勉強する事がたくさんありとても良い経験でした。



2016年・生産技術コンテスト

専攻科生産システム工学専攻1年
杉山 雄哉

8月22日と23日にオムロン株式会社東京事業所で行われた、オムロン・高専機構共同教育プロジェクト「平成28年度生産技術コンテスト」の成果発表会に私たち専攻科1年生3名からなるチームで参加しました。このコンテストは今年度で3回目となり、今回は7

高専が約3か月間課題に取り組みました。課題は生産技術に使われるコントロール（PLC）で制御される3軸ロボットを使い、紐で結ばれ揺れるサイコロを回転するテーブルの穴へ手動と自動で入れる規定課題と自由課題でした。手動で穴へ入れるのが難しく、かなり練習が必要でした。

鳥羽商船として3連覇を目指す最終発表会は接戦となりました。私たちは自由課題としてペットボトルへの水の充填とキャップ締めを行い好評でしたが、簡単なはずの規定課題で今まで出なかつたバグでの失敗があり惜しくも準優勝となりました。悔いが残る結果となりましたが、不測の事態に対応できる冷静さが必要だと学ぶことができました。



HACKU2016名古屋会場を終えて

制御情報工学科4年
中村 洋平

僕たちのチームはスマートフォンを用いてスキューバダイビング中に救難信号を発信するアプリを開発しHACKU2016というコンテストの名古屋会場に参加しました。僕がコンテストに参加した理由は授

業でのプログラミングだけでなく、実際にシステムの開発をしたいと思っただけです。

チームメンバー3人でそれぞれ役割を分担して開発、資料作成、プレゼンテーションの練習をしました。

コンテスト当日のプレゼンテーション終了後、デモンストレーションの時間に審査員、他のチームの方から「スマホを海中から浮かせるのはおもしろい」などの声を聞かせていただくことができました。

実際に意見を聞くことで自分達では分かっていなかったアプリの欠点、改善点に気付くことができ、とても参考になりました。

結果は優秀賞をいただくことができませんでした。副賞としてチームで招待されている2月のEcosDexに向けてチームの3人でアイデアを出し合い、開発するためのスキルを高めていきたいと思えます。



英語スピーチコンテスト入賞

商船学科2年
見代 健

私は8月にUL JAPAN主催の英語スピーチコンテスト、11月に東海北陸地区高専英語スピーチコンテストに出場し、船舶の安全についてスピーチし

ました。前者では優秀賞、後者では全国大会へ進めなかったものの3位に入賞しました。このコンテストは初めてのスピーチで、練習時間が少なく、内容も不十分で、自分の力を十分に発揮出来ませんでした。その反省を活かし、高専のスピーチコンテストに向けて内容の見直しや発表の練習を何度も行いました。高専のスピーチコンテストでは、私は11名中最後の順番で、他高専のレベルの高さに驚き、入賞する自信は全くありませんでしたが、練習の成果を十分に発揮し、大きなミスなく発表出来ました。今回、スピーチコンテストに入賞出来たのは、指導してくださった先生方のおかげです。来年は、全国大会出場を目指し、今よりさらにレベルを上げて、他の発表者に負けないスピーチが出来るよう練習を重ねていきたいと思えます。



商船学科3年堀口君（左側）と筆者（右側）

ISTS(International Symposium on Technology for Sustainability)に参加して

海事システム学専攻2年
大見 航也

私は10月4日、13日の間、インドネシア・シヨグジャカルタで行われたISTSに参加しました。

ISTSは、シンガポール、マレーシア、フィンランド、フィリピン、インドネシアそして日本の学生で行われた国際シンポジウムです。

今年インドネシアの現地で様々な専門知識を持つ学生が1つのグループとして活動し、問題を明確化して解決策を提案するものでした。まず、茨城県筑波市で開催された活動では企業や市役所などの見学、調査の上で、英語による論文作成とポスターを作成しました。英語での作成は初めてでしたが、作成したポスターは、Most Outstanding Poster 賞を受賞することができました。

各国 各校からの学生と交流する中で、専門分野以外を学びながら、自分の国以外の習慣にも接することで国際的な視野を広げるだけでなく、1つの課題に多角的に向き合う大切さを学びよい経験となりました。この経験は、将来の仕事である航海士の仕事に役に立つと信じています。



カッター部人命救助に関して

商船学科航海コース3年
森山 風音

涼しい風に、秋の深まりを感じる季節となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。我々カッター部は来年度、鳥羽で行われる漕艇大会に向け部員一同、一丸となり日々練習に励んでいます。

さて、既にご存知の方もおられるかもしれませんが、今年6月26日にカッター部が人命救助を行いました。当時、私たちは7月の漕艇大会に向け練習しており、その最中に故障し沈みかけていた水上バイクを発見し人命救助を行いました。初め遭難した人を見つけた時は慌ててしまい、敏速な対応をとることが出来ませんでした。しかし、乗船していた部員がまとまって力を尽くしたことで結果的に尊い命を助けることが出来ました。

今回このような経験をふまえ、仲間が一丸となって取り組むことでどんな困難も乗り越えられることを身を持って実感しました。来年に向け、さらに部員一同、心身共に成長していきたいです。今後とも応援よろしくお願いたします。



献血功労者表彰で金色有功章を受章

学生会会長 制御情報工学科4年
世古 穰太郎

本校は、平成28年度三重県献血功労者表彰で金色有功章を受章しました。金色有功章とは、献血回数が1000回以上の献血者、献血活動継続年数が20年以上の献血団体・献血推進団体及び献血推進者に授与される章です。

本校では長年、秋の海学祭において献血活動を行ってきたため、その功績を評価していただき、今回表彰されました。鳥羽商船高専の一学生として、このような名誉ある章を頂けてとてもうれしく思います。毎年行っているこの献血活動で多くの人が助かっていると思うと、学生会役員としてこの活動を続けてきてよかったと感じています。

これからも献血活動を継続していき、血液を必要としている多くの人の手助けをしていきたいと思います。



インターハイに出場して

制御情報工学科2年
岡本 真平

私たち少林寺拳法部は7月28日〜7月31日に岡山県美作市で開催された全国総合体育大会に出場しました。今回の開催地は少林寺拳法開祖の誕生した場所でもあり、いつも以上に気合が入りました。三重県代表として男子組演

武1組、女子組演武1組、男子単独演武1名が本校から出場しました。限られた練習時間の中で、互いにアドバイスし合い、より良い演武を作り上げてきました。

試合会場は熱気と歓声に包まれ、私たちを圧倒するようでした。演武では、自分らしさを出せたと思います。しかし、全国大会の壁は厚く、予選敗退という結果になり、力不足を痛感しました。他校の演武はキレが良く、気合も大きく、見本となる様なものでした。これを受けて、次への目標を持つことが出来ました。大会に出場できたことは私にとって凄く貴重な経験になりました。この経験を活かしこれからも一層日々精進していきたく思います。



第68回中部日本卓球選手権大会に出場して

電子機械工学科5年
中井 彩華

今年の中部日本卓球選手権大会は、平成28年7月16日から18日まで岐阜県モリアルセンターで開催されました。高専から初心者として卓球部に入部し、日々の練習に取り組み中で、この大会に出ることは私の目標の一つでした。4年生までは予選を通過できず悔しい思いをしましたが、5年生の最後

の予選会では、同級生の堀江さんや後輩の内田さんと一緒に通過することができました。会場に入り、各県の代表選手のプレーを見て、レベルの高さにすぐ緊張しました。ダブルスの試合は堀江さんと組み、1回戦は石川県代表のクラブチームのペアと対戦しました。シングルの試合では、富山県代表のクラブチームの選手と対戦しました。今回の大会では、1回戦を突破できませんでした。強い人達のプレーを間近で見ることができ、たくさん刺激を受けました。この大会に出場できたことは私にとってかけがえのない経験となりました。最後に、私がかこまでこられたのは卓球部の先輩や後輩、アドバイザーの方々、顧問の教官のおかげです。

本当にありがとうございます。ごさいました。



剣道部

制御情報工学科4年
小林 由実

剣道部は現在、男子15人、女子3人、マネージャー1人、合計19人で活動しています。練習は、週に4回、16時から18時です。昨年度からは、外部の指導者の先生に来て頂いており、技や試合運びの方法など、様々な事を学ぶことができるようになりました。そのお陰で、以前に比べ、自分が納得す

るまで稽古を続ける部員も増えました。

今年の東海地区高専大会の団体戦の結果は男子が5位、女子が2位でした。今年も全国大会が愛知県豊田市で行われたので特別枠として我が校の女子団体が全国大会に出場できました。やはり全国大会は地区大会と違い、迫力があり、試合場に立つと、緊張して自分の思い通りに体が動きませんでした。結果は予選敗退でしたが、来年も全国大会に出場するという目標が出来ました。来年は良い結果を残せるようがんばります。



平成28年度鳥羽市スポーツ優秀団体表彰を受けて
竹田照人先生（指導者）と女子団体チーム

バスケットボール部の紹介（全国高専体育大会）

電子機械工学科4年
鈴木 達也

今年度、バスケットボール部は主催校として全国高専体育大会に参加しました。本大会はトーナメント方式で行われ、本校は前回の優勝校と一回戦で対戦し敗退してしまいました。試合結果は残念でしたが、全国の高専のレベルを体験することができ、とても良い経験になりました。一回戦の相手校は今大会でも優勝でした。バスケットボールの強いチームは比較的身長の高

い選手が多いのですが、優勝校は特別身長が高い選手がいたわけではなく、チームディフェンスを頑張るチームでした。本校バスケケット部も身長が高い選手がいるわけではないので、とても参考になりました。

今後はこの経験を活かして練習に励みたいと思います。そして、来年度は自分たちの力で全国高専体育大会に出場できるように頑張っていきます。



柔道部の紹介

電子機械工学科4年
中世古 玲弥

柔道部は現在、男子9人、女子3人の部員がいます。部員の多くは高専入学後に柔道を始めた学生です。高専大会や三重県学生柔道大会等への出場や昇段を目指し、普段は柔道6段の指導者のもと、校内の柔道場で、技の研究や乱取りを中心に練習を行っています。また年に数回は、鈴鹿高専柔道部と合同練習を行っている他、最近では大阪市役所柔道部や鳥羽東中学校柔道部、鳥武館柔道スポーツ少年団とも一緒に練習を行いました。その結果今年高専大会では、女子個人戦48kg以下級で全国大会3位に入賞しました。

男子は惜しくも団体戦、個人戦とも結果を残すことができませんでした。が、次の大会に向けて技を磨き、もっと上へと勝ち進んでいけるように切磋琢磨していきます。



体育祭を終えて

体育祭実行委員長
電子機械工学科3年
前田 憲吾

10月12日、今年度の体育祭が開催されました。今年は天候にも恵まれ、無事開催できましたことを体育祭実行委員一同うれしく思います。

今回は、体育祭を楽しく且つ進行をスムーズに行える事を目標に取り組みました。事前の打ち合わせを十分にに行い、準備に万全を期しました。各競技に関わっている部活動との連携が上手くいったことで、最終的に体育祭全体を楽しく盛りあげることが出来たと思っています。また、賞品や参加賞は、みんなに満足してもらえそうな品物を選んだつもりです。

当日は、綱引き、ミニサッカー、バスケットボール、バレーボール、卓球、テニス、バドミントンの7競技に分かれてクラス対抗で行いました。各

競技どれも手に汗握る白熱した試合が行われ、他のクラスに負けまいと怒涛の応援が、体育祭を大いに盛り上げてくれました。結果は、優勝クラスは電子機械工学科4年生、準優勝は商船学科3年生となりました。ケガやトラブルもなく、無事楽しく終えることができ嬉しく思います。

今回実行委員長という大役を務めさせていただきました。周りの協力もあり成功した一方で、至らぬ点もあつたと思います。全体を通して、あらためて人の上に立ち運営を行う事の重大さを知る良い経験になりました。今後は、この経験を生かしていきたいです。

最後になりますが、協力してくださった、各競技の部活顧問の教職員の皆様や学生の皆さんのおかげで、今年も素敵な体育祭にすることができました。ありがとうございました。



海学祭を終えて

海学祭実行委員長
制御情報工学科3年
中村 知華

10月29日・30日に今年で第51回目となる海学祭が開催されました。

前夜祭では強風に見舞われ、テントの屋根を外すという事態になりましたが、本祭では天候に恵まれ、素敵な海学祭を行うことができました。開催に至るまでは、学生会役員、学生の皆さん、教職員の皆さまそしてスポンサーの皆さまにご協力いただき、無事終えることができましたことを学生会一同感謝しております。

今回の海学祭のテーマは、「なあ、海学祭行こ。」でした。このテーマには、今年のサミットで注目された三重の三重弁を用いることで、地元の人だけでなく、県外の人にも興味を持っていただきたいという思いも込められています。その結果、たくさんの人に来て楽しんでいただき、学生の皆さんも含めて楽しんでいただけたと思うので、本当によかったです。

今年度は3・4年生を中心に各部署を担当しましたが、来年は中心メンバーの学年も上がるので、グレイドアップした海学祭を開催したいと思えます。



国際交流

ME L キャンプに参加

商船学科3年

橋井 太志

私は、今年の9月にME L キャンプに参加し、多くのことを学びました。シンガポールは、大きな建物や商店街などが並び、とてもにぎやかでした。また、バスやタクシーなどを利用する人々が多く、日本とは異なり、黄色はもちろん、青色や赤色などのタクシーが行き来していました。他にも日本と異なる点がいくつもあり、日本との違いを見つけるのが楽しかったです。

特に驚いたのが、語学研修の時に学んだ「シングリッシュ」でした。英語とは違い、例えば、英語では「hurry up」と言うが、シングリッシュになると「chop chop」となり、意味は同じですが、英語とは全く異なっていました。

自由時間には、向こうの人達と一緒にいろんな場所を観光したり、企業訪問やME Lクルーズなどまだまだ書き足りません。今回、ME L キャンプに参加したことで自分の英語力がいかに低いかがわかったので、これからはもっと英語に力を入れ、もっととスムーズにコミュニケーションをとれるようになりたいと思います。



Maritime Training with SMA Students

(Advance Course Maritime System Course)

Koya Omi

At NIT Toba college, a maritime training is held for students who study maritime technology. Students of SMA (Singapore Maritime Academy) visit our college to join this maritime training every year. The participants, including both SMA and Toba students, spent all day on board Toba-Maru. It is not unique for Japanese students to stay on board on our training ship, while it must be special for SMA students, since they don't have a training ship. So, Japanese students told them about not only Japanese culture but also the actual maritime knowledge they know. Most of Japanese students had been to Singapore before this program started. So, they know the difficulty to understand a different culture. For most of the Singaporeans, this was the first time to come to Japan. So, they might not have enough time to learn about Japanese culture. There are some differences between Japanese and Singaporean students. Nevertheless, they had a good time during this program. One of the reasons why they could spend great time is their age. They are as young as we. Therefore, they can make a good friendship with us. Through this program, all of the participants had a great experience. As we know a common knowledge, Singapore is the greatest hub port for containers. In the future, some of Toba students might work with the Singaporean participants. We hope the experience which they got can be helpful for their future.



トビタテ！留学 JAPAN プログラムに参加して

商船学科3年

堀口 駿

私は、今回文科省の主催する留学支援プログラム「トビタテ！留学 JAPAN プログラム」の地域人材コースで三重県代表生としてご採択頂き、アメリカ・シアトルへ約半年間留学させて頂きました。留学当初には色々な面で苦労しましたが、半年間の語学学校での授業と川崎重工米国法人での2週間のインターンシップ、ボーイング社や現地の多数の日系企業への会社訪問を通じて、「航空部品輸送を効率化し、三重県の航空宇宙産業を活性化する」という採択頂いたテーマに対して現地で学ぶことが出来ました。また、自身のTOEICスコアも留学前よりも300点アップし、留学を成功させることが出来ました。私はトビタテで大きく成長出来たので、迷っている人はぜひチャレンジして欲しいと思います。三重県や支援企業の方々、先生方、家族、友達の支えがあつて、自分がトビタテで留学出来たという感謝の気持ちを忘れず、これからの学校生活や自分の夢に向かって努力していきます。



平成28年度英語キャンプに参加して

制御情報工学科4年

小山 紗希

私は8月14日から29日の約2週間、英語キャンプとしてシンガポールへ行き、英語を学んできました。今回の英語キャンプには全国の高専から18名の高専生が参加しており、1年生の学生もいました。私たちはSingapore Polytechnicで2週間英語での授業を受けました。授業では楽しいゲームをしたり、英語でスピーチやディベートをしたりとても楽しく英語に触れることができました。最初は英語になかなか慣れることができません、同じ班の学生に聞いたりしながら会話をしていました。しかし、日が経つにつれて私も英語に少しずつ慣れ、英語を聞き取ったり話したりすることができるようになりました。シンガポールの人たちはとても優しく親しみやすく、放課後は一緒にバスケットボールをしたり、夕ご飯を食べに行ったりしました。休日は授業がなく、1日中シンガポールを観光することができました。



機会があれば違う国にも行ってみたいと思います。



ニュージーランド視察報告

国際交流推進室長

橋爪 仙彦

11月20日から25日の6日間、ニュージーランドにあるオタゴ・ポリテクニクへの視察に参加してきました。これは、来年度以降に予定されている新3年生を対象にした新しいプログラムの開発に向けてのもので、主にエンジニアリングを専攻する学生が参加対象となります。

オタゴ・ポリテクニクがあるダニーデンという街は、ニュージーランドの南島に位置し、人口12万人のうち2万5千人が学生という学園都市です。日本からは関西国際空港からオークランドに直行便で10時間、そこから国内便に乗り換えてダニーデン空港まで2時間、空港から街へは車で15分という行程でした。視察初日は、オタゴ・ポリテクニクを訪問し、キャンパス内を見学しました。先方のスタッフからポリ

ネシア語での出迎えを受けた後、学内の施設の回りながら、担当者より設備の説明を受けました。途中に立ち寄った教室では、1年間の予定で滞在している金沢高専の学生が20名ほどいて、実習を行っていました。彼らにうかがってみました。現地での生活に満足しているようでした。

二日目は、オタゴ・ポリテクニクと関係のある現地の企業を訪問し、実際にインターンシップを行っている学生たちに話を聞いてみました。日本のカンバン方式を取り入れながら、次々に改善を行っている企業も視察しました。「Kaiahi」という言葉が英語になっっているのを聞くのは新鮮でした。午後は、ダニーデンの街や郊外を回り、周辺の生活環境や自然環境も充実していることがわかりました。

三日目は、ホストファミリー宅を訪問し、実際に留学する学生たちが生活する部屋などを見せてもらいました。バス、トイレも素敵で、洗濯機もちゃんと整えられていました。

このプログラムは、トビタテ留学JAPANを意識し、高専機構として取り組むことにしたものです。はじめて海外に行きたい学生にも満足してもらえるような内容、そして、申請しやすくなるようなプログラムになることを目標にしています。現在、本校で開催している他のプログラムと併せて、海外留学が身近なものであるということを実感してもらいたいと思います。



商船学科乗船実習

一カ月の実習を行って

商船学科3年 中村 海斗

乗船実習は、航海・機関のコースの選択をする前に、船の仕事の全てを体験できる重要な実習であった。船橋やエンジンコントロールルームで行う当直や出入港作業、揚投錨実習、エンジンの概観チェックなど、航海・機関の区別なく航海に必要な事を体験できた。また、乗船実習とはいうものの、教室では通常の授業も受けた。

ただ、海の上というだけあり、風などで船の揺れが大きい時は、船酔いで実習に耐えられない人もいた。さらに、船酔いが強すぎて食事も食べられず、友人に自分の分をあげてしまう人もいた。私にとっては、船での食事はおいしく楽しみでもあり、いつもお腹一杯食べていた。1日の課業が終わると疲れているのか、早々とボンクで寝てしまう人もいるが、まだまだ、元気な人もおり、このような人は友人と話をしたりしていた。

乗船実習は、友人達と共に暮らすことも含め、普通の学校生活ではできない体験もでき、私にとって良き思い出となった。



日本丸の夜景

航海訓練所にて

商船学科3年 森山 風音

自らの人生観が変わる……。これが私が1カ月の航海訓練にて得た一番大きな出来事だった。

初めは苦難の連続だった。慣れない船での生活や新たな人間関係、様々な不安で私の心は押し潰れそうだった。スケジュール帳を見て毎日溜め息をついていたのを今でも憶えている。しかし、1週間もすれば他商船との友情も生まれ実習にも慣れてきた。最初は上手くいかなかった実習も日を追うごとに出来る事が少しずつ増え実習に対する意欲も深まった。又、船内で生活する内に他の実習生と話す機会も増え、大変だったが楽しく充実した毎日を送る事が出来た。

今回の実習を経て苦難を切り抜ける力、新たな生活に対応する力、諦めないことを身を持って学んだ。船内での生活は正直大変である。しかし、その中でも学べることや良い思い出は沢山あり、今振り返れば、楽しかったと言言うことが出来る。四年生の後期より始まる遠洋航海に向け、これからも頑張りたいと思う。



実習中の風景

帆船・日本丸での遠洋航海

商船学科航海コース5年 青木 翔馬

私は4年生の時、帆船「日本丸」でハワイまで航行しました。実際に風でハワイに行く場合、風を捕まえるため進路をこまめに変えます。風が変わったか判断する際に頼れるのは自分の感覚のみです。これが実習開始当初は本当に難しく、周りの景色も変わらないため本当にハワイに近づいているのか不安に思うことさえありました。次第に、日本丸に乗っている4校の商船高専の同期の仲間と、自分たちの力で船を運んでいくことに楽しさを覚えはじめ、ハワイに着いた時にはなんととも言えない達成感と喜びを感じました。やはりこのような経験は鳥羽商船高等専門学校に入学したからこそ出来る事なので、これから帆船に乗る本校の学生は陸にはないたくさんの事が学べるので、是非楽しんで行ってきてほしいと思います。



遠洋航海中の帆船・日本丸

銀河丸での乗船実習

商船学科機関コース5年 山本 朴

四年生の後期に練習船・銀河丸にて10月1日から2月29日までの5ヶ月間乗船実習に行きました。その間入港した港は東京、七尾、佐世保、神戸、別府、広島、横浜、名古屋、高松で、日本沿岸を一周しました。銀河丸は二年度の実習以来二度目の乗船でしたが、他高専や大学生と一緒に乗船し、新たな気持ちで実習に取り組みました。

今回の実習では、初めて夜航海の当直があり、4-8直で夜中の三時半に機関室に入り、朝の八時まで当直を行う大変さを身にしみ感じました。実習後半では座学よりも体を使って行う整備作業が増え、機関士が仕事で行う内容を自分たちで行い、これまで頭の中で理解していたことを体で覚えるよう努力しました。その他にも、燃料の補油作業など、実際に動いている船を間近で学ぶことが出来ました。来年、6か月の乗船実習があります。できる限りの知識と技術を身につけ、就職後の仕事に備えたいと思います。



銀河丸の主機（エンジン）

NTT-MEのインターンシップに参加して

電子機械工学科4年 馬場 大聖

私はこの夏休みに、NTT-MEのインターンシップに参加してきました。その中で最も印象に残っていることは、「とう道見学です。皆さん「とう道」がどんなものか知っていますか?とう道とは、地下にある巨大な空間で、通信に必要なケーブルが多数配線されている場所のことです。このとう道は社員の3割程しか実際に見たことがない場所でもとても貴重な体験をすることができました。また、社員の方とお話する機会があり、「当たり前を当たり前に」ということをおっしゃっていました。

現在、携帯電話やインターネットは当たり前のように使えますが、作業のミス一つで当たり前ではなくなってしまうことがあり、「当たり前を当たり前に」することがすごく難しいのだと分かりました。インターンシップでは実習や見学だけでなく他高専の人と話せたこともいい経験になりました。

校外実習に参加して

制御情報工学科4年 尾崎 友哉

私は森永乳業株式会社中京工場の校外実習に参加しました。実習では飲料製品の製造工程について学習し、最終日にまとめとしてプレゼンテーションを行いました。実習で学んだことを自分でもまとめることによって、実習に対しての理解を深めることが出来ました。社員や役員の方の前でプレゼンテーションを行う機会は貴重なのでとても良い経験になりました。

また、今回宿泊させて頂いた寮では先輩たちが歓迎会を開いてくださるなど、親密に接してくださったので、先輩たちとの距離感を縮めることができ実際に働いてみた感想や、良い点、悪い点など、今後の就職活動の参考になる話を聞くことができました。

今回の校外実習を通して他高専の人と深く関わることで、お互いの情報を交換したり、職場の方々と接することで自分の将来に関する意識の低さや自習中の姿勢などの課題を見つけることが出来ました。また、実際に働くうえで限られた時間の中でどれだけ完成度の高いものを作ることが出来るかが大切だと感じました。今回学んだことを今後の学校生活に活かしていきたいです。



リーダーズトレーニングについて

学生会議長 商船学科機関コース3年 柴田 蘭乃

8月30日と31日の2日間に行われた今年度のリーダーズトレーニングに参加しました。リーダーズトレーニングは、本校のリーダーとなる学生を育成することを目的としています。今回は学生会役員その他に、各クラブの代表、寮生会役員、鈴鹿高専の学生会役員が参加しました。

初日の午後は、鈴鹿の青少年センターで心理カウンセラーの宗田先生のご指導のもと、集団でのコミュニケーションスキルの向上について学びました。夜には学生会役員とクラブ代表に分かれて、学生会役員は、今後の活動について話し合いました。私は学生会役員として、鈴鹿高専の学生会役員の人と、学校祭についての情報交換をしたり、海学祭に向けて話し合ったりしました。

2日目は京都の清水寺周辺を観光しました。清水寺でおみくじを引いたり、周辺を散策したり、まるで修学旅行をしている気分になりとても楽しかったです。

この2日間の研修で、リーダーに必要な要素とは何か、人に自分の意見を伝える難しさを知りました。今回の経験を生かして学生会活動に活かしていきたいと思いました。

リーダーズトレーニングに参加して(部活動代表)

文芸部 制御情報工学科3年 竹内 勇勝

8月30日・31日に行われたリーダーズトレーニングに文芸部の代表として参加してきました。部活動のみが行った事は、1日目のマネージメント講習です。内容は部活動内での安全管理についてでした。各部活動で事故に繋がる可能性のあるもの・事象を把握し、対策を練りました。運動部は命に関わる事故も起きる可能性があるため、熱中症対策や、事故対策、備品点検など、真剣な表情で考え書き出していました。私が代表として参加した文芸部は、文化部なので特に危険なことも無いかなと思っていましたが、紙に書き出すうちに次々事故やケガに繋がる可能性のあるものが出てきて、驚きながらも細かな事でも安全管理を徹底しなければと感じました。

今回のリーダーズトレーニングを通して、各部活動は更なる安全管理の必要性を感じました。今後は、快活に部活動が行えるよう更に安全管理を徹底していきたいと思っています。



インターンシップ

リーダーズトレーニング

工場見学

工場見学に参加して

電子機械工学科4年 北村 優磨

私たち電子機械工学科4年生は10月19日から10月21日にかけて、愛知と横浜地区の3箇所の工場見学に参加しました。

1日目には愛知県にあるトヨタ自動車を見学しました。私たちが訪れた元町工場では、クラウンやマークXなどを生産していました。工場を見学した後は、トヨタ会館を散策しながら、車に関する事を分かりやすく学ぶことができました。

2日目には横須賀にある海洋研究開発機構(JAMSTEC)の見学に行きました。私たちが訪れた時、偶然にもしんかい6500のメンテナンスを実施していました。整備済み実機を見られるだけでも運がいいと言われてるのに、さらに、メンテナンスの現場でしんかい6500の内部を見ることができました。

最終日には東京ガスに行きました。東京ガスでは、ガスを輸入して、それを保存、家庭に送る過程について説明を受けました。説明を聞いた後は、バスに乗り、敷地内の見学に参加しました。世界最大級のLNG貯蔵タンクなどをバスの中からですが見る事ができました。

今回の工場見学では、めったに見ることができない、車ができるまでの工程や、しんかい6500の整備、世界最大級のLNG貯蔵タンクを見る事ができ、とてもいい体験ができたと思います。今回の経験を、是非とも就職活動に生かしていきたいと思っています。



工場見学を終えて

制御情報工学科4年 中川 樹

工場見学では、「トヨタ自動車」のトヨタ会館・元町工場とウエザーニューズを見学しました。元町工場には、ライントレースをして自動で物を運ぶ部品運搬車があり、今自分たちが学んでいる技術がどのように活かされているか考えることができました。また、工場内を見学し、実際に仕事をしている人を見ることで工場の雰囲気や作業の大変さを感じる事ができました。

最終日には「ウエザーニューズ」を見学しました。ウエザーニューズは天気予報を活かしてJRなどの交通機関を安全に運行させたり、インターネットを利用して天気予報を配信したり、マルチに活躍している印象を受けました。また、グローバルな会社なので英語の重要性を改めて知ることができました。

工場見学を終えて、各会社の社員の方々の仕事に対する姿勢や意識の高さを感じる事ができました。この機会に学んだことを今後の就職活動に活かしていきたいです。



フィールドワーク

フィールドワークに参加して

商船学科2年 服部 達人

私たち商船学科2年生は十月十九日にフィールドワークでジャパンマリンユナイテッド津営業所という造船会社と名古屋港を見学しました。

造船所ではまず、工場と造船についてのビデオを見せていただき、その後工場内をバスで見学しました。工場内はとても多くの人がそれぞれの工程で作業をしていました。見学を終えてから、本校の卒業生の方が話をしてくださり、学校にいる間に何をすべきかなどを改めて考えることができました。

午後は、船に乗って名古屋港管理組合の方から名古屋港について教わりました。名古屋港には「名港トリトン」という三つの橋があり、名古屋のシンボルとして平成十年三月に開通しました。私たちは名港中央大橋という白い橋の下を通りました。名古屋港にはとても沢山の船が行き来していました。

今回のフィールドワークで自分の将来について考えを深めることができました。今後のコース選択や就職活動で学んだことを生かしていきたいと思っています。



フィールドワーク感想

電子機械工学科2年 新開 皓太

私はフィールドワークで三重県立博物館と中部電力川越火力発電所に行きました。三重県立博物館にはミエゾウの化石のレプリカなどの歴史的なものから動物・昆虫などの剥製や標本などが展示されており、三重県について改めて知ることができました。また川越火力発電所では、私たちの生活は電気によって支えられていると改めて感じました。

川越発電所テラ46では、環境のことや電力のことをゲームにしてある機械がたくさんあって小さい子でも楽しめていると思いました。一階にある伊勢湾ジオランドでは小さい自転車で違う科のみんなとレースをして楽しみました。漕ぎづらいうちが自転車でレースはとても盛り上がりました。私がフィールドワークで一番楽しかったのは、バスでの移動時間です。私たちのバスではゲームやカラオケをして盛り上がりました。カラオケでは意外と歌が上手な子がいたり、苦手な子もいたりして、フィールドワークを通して、よりみんなのこと知れた気がします。私は卒業までにもっとみんなを知って仲良くなりたと思います。



テラ46

練習船「あまき」と陸上帆船

名誉教授 水野 逸夫

1. 練習船「あまき」と陸上帆船の建造

明治44年、本校は鳥羽町立から三重県立へと移管され、校地、校舎は現在地へと移転した。県立移管後、設備充実のため、練習船と陸上実習設備としての陸上帆船が建造された。練習船「あまき」（3本マストのバーク型、300総トン補助機関付）の建造は、大正5年4月、鳥羽の江崎造船所で始まり、大正5年9月に進水、大正6年1月に竣工した。建造にあたっては、費用節約のため、旧軍艦「天城」を解体し、再使用できるものはできるだけ利用した。「天城」は明治42年に海軍より本校に保管転換され、池ノ浦に定置して実習に利用していたものである。また大正6年3月、実習設備として校地内に「あまき」とほぼ同型の陸上帆船（長さ29.0m、幅7.3m、深さ1.7m）が建造された。

2. 「あまき」と陸上帆船の活躍

「あまき」は、毎年の維持運航費を賈うため、民間業者と契約を結び、実際の海運業に携わりながら実習航海を行った。不況のため、係船されていた時期もあったが、南洋のマーシャル群島やオホーツク海との往復や日本の沿海航路で活躍した。陸上帆船

は校内実習に活用され、本校の象徴であった。設置場所が校内の北西端であったので、道路や国鉄参宮線の列車からよく眺めることができ、鳥羽の名所として有名であった。

3. 「あまき」と陸上帆船の最期

大正14年3月13日、「あまき」は東京から大阪への航海途中、静岡県相良町沖合1kmの地点で暗礁に乗り上げた。船体の破損の程度はそれほど大きくはなく、修理や引き上げの努力が行われた。しかし3月20日過ぎから連日強い風波が続き、引揚げ作業場がすべて破壊され、船体も大破したため、ついに放棄されてしまった。死傷者が1名も出なかったことだけが不幸中の幸いであった。

陸上帆船は長く実習に使われ、本校の花形であり続けた。しかし太平洋戦争の末期から終戦後における物資不足、予算不足のため、船体やマスト、索具類の保守管理や修理ができず、危険な状態になってしまった。そのため、戦後は実習に使われることなく、放置された。さらに昭和34年の伊勢湾台風による被害損傷が大きく、昭和35年7月に撤去された。



陸上帆船の絵葉書（昭和12年頃）

平成28年度専攻科(海事システム学専攻)入学式挙行

平成28年度専攻科(海事システム学専攻)5名を迎える入学式が10月3日(月)に挙行されました。新田校長から「初志を貫徹し、創造性豊かな、そして社会的応用性の高い研究を行い、これからの二年間が有意義なものとなることを願います」と祝辞が述べられた後、新入生代表から「グローバルな視点で物事を考え、社会に貢献できる立派な海事従事者となるよう、精一杯取り組んでいきます」と挨拶がありました。新たな門出を迎えた新入生たちは、希望に満ち溢れた表情で会場を後にしました。



公開講座・出前授業

公開講座「サイテクランド2016」を実施



おもしろ理科実験

本校では今年度も、広く地域社会に学習の機会を提供することを目的として、公開講座「サイテクランド2016」を開催しました。

今年度も、幅広い分野で実施し、142名の参加がありました。各講座の受講者は、先生の説明を熱心に聞き、意欲的に授業に取り組んでいました。

出前授業では、依頼があった伊勢・鳥羽市内の中学校を訪問し、3DCGの作成体験や、オリジナル下敷き作り、LEGOロボットを使った授業等、普段経験することができない授業を体験していただきました。

また、NPO法人「故郷の海を愛する会」との共催で、本校練習船鳥羽丸に乗船して体験航海と造船所見学を行いました。造船所では船の建造の様子を見学し、重い鉄の船が浮く仕組みを勉強していただきました。

出前授業一覧

| 講座名称 | 開催日時 |
|---------------|-----------------|
| 伊勢志摩サミットお祭り広場 | 5月21日(土)・22日(日) |
| 集まれ!セタ♪夕涼み♪ | 7月7日(木) |
| オリジナル下敷き | 8月17日(水) |
| 3DCGを体験 | 8月17日(水) |
| オリジナルTシャツ | 10月12日(水) |
| ロボット講座 | 10月22日(土) |
| LEGO 初級 | 11月3日(木) |
| オリジナル下敷き | 11月9日(水) |
| LEGO 初級 | 12月9日(金) |
| LEGO 初級 | 1月13日(金) |

公開講座一覧 サイテクランド in 鳥羽商船高専

| 講座名称 | 開催日時 |
|--|----------------------|
| 鳥羽丸体験航海「伊勢湾を調べよう」 | 7月26日(火) |
| ソーラーで動くおもちゃ工作 | 8月19日(金) |
| 手作り振動型発電機を作ってLEDを光らそう | 8月23日(火) |
| 電気を測ってオームの法則を確認しよう | 8月25日(木) |
| "「INNOVATOR'S SUMMER」 in 鳥羽商船 いちごジャムでマイコンプログラミング" | 8月26日(金) 8月27日(土) |
| 3Dプリンタでオリジナルスマートフォンスタンドを作ってみよう | 8月29日(月) |
| おもしろ理科実験 | 9月4日(日) |

編集後記



学校だより第85号をお届け致します。

本号は、近年活躍の目覚ましいコンテストやクラブ活動などの本校学生の自主的活動や、各種国際交流プログラムや郊外実習における学生の活躍を中心とした内容でお送りしております。

長い歴史を礎に、新たな道を切り開いて歩み続ける本校の今の姿をお伝えできれば幸いです。本号におきましても、多くの方に記事をお寄せ頂きました。有難うございました。

(山下記)